

は

パス・クレヨン 墨あり樹あり 手足もね

Keyword : 美術とは, 美術教育とは, 感性とは

●学校と私

私は「勝手に決まられて、自分でほしい。」



戦後間もないころ中学の美術教師をしていた時、生徒が画用紙や絵の具を買えないというので、新聞紙に墨で絵をかかせることにした。

絵は自由に描かせよう

私の時の授業は、水鉄筒に絵の具を入れて紙に同じで打たせたり、筆に絵の具を付けて自由に描かせるようにした。

毎日新聞 8/3 96. 中川裕介くんがわが研究室に持参・提供してくれたものでした。 大阪市生手町 前衛芸術家、1934年の具体美術協会結成に参加。中学校教諭、京都教育大教授などを経て、宝塚造形芸術大教授。メールアートやスキンヘッドアートなど多彩な活動を展開している。



上掲の嶋本昭三氏（85歳／2013年1月25日ご逝去）のコメントが掲載された毎日新聞のこの記事（1996.8.3）、1996年の夏、「若元はきっと共感する」と、中川裕介（当時広島大学学生）くんがわざわざ私の研究室に持参・提供してくれたものでした。この記事との遭遇は「美術教育」とはなにか、「美術」とはなにかを再考するきっかけになりました。嶋本昭三先生から直接ご了解もいただき学生や現職教員等に配布した枚数は決して少なくありません。あらためて中川くんに感謝しながら、以下、記事の全文を書き起こしておきます。

●学校と私／／「絵は自由に描かせよう」／／／嶋本昭三さん／／／大阪生まれ。前衛芸術家。1954年の具体美術協会結成に参加。中学校教諭、京都教育大教授などを経て、宝塚造形芸術大教授。メールアートやスキンヘッドアートなど多彩な活動を展開している。／／／／／／／／／／／／／／／／戦後間もないころ中学の美術教師をしていた時、生徒が画用紙や絵の具を買えないというので、新聞紙に墨で絵をかかせることにした。筆のない生徒には手でかかせた。中には「足でかいていいか」という生徒も出てきて、かかせるとものすごくいい絵ができたので、学校入り口の掲示板に張った。すると、校長が「神聖な学校の玄関に足でかいた絵を張るのはけしからん。おかしな教師がいる」と教育委員会に訴えた。■ところが、視察に来た市の指導主事は「素晴らしい授業」と評価してくださった。今度は校長は「指導主事はおかしい」と教育長に訴えたが、問題の絵が毎日新聞のコンクールで上位入賞し、学校賞ももらいようやく収まった。■大学の付属養護学校の校長

をした時には、当時大阪で開かれていた「花博」で養護学校生徒の作品を展示してくれることになった。近畿地方の各校から1点ずつ出品してもらおうと思ったら、各校の校長は「勝手に決められても、作品の郵送費用はどうする」などと言う。たった切手1枚のことなのに。こんな事なかれ主義の校長ばかりで教育がよくなるわけがない。■中学の教師になって驚いたのは、どのクラスで聴いても絵の好きな子が3割くらいだったこと。みんな絵が好きと言うと思っていた。でも、絵が嫌いと言う子の手元を見ると教科書やノートに落書きをしている。美術の授業は自由にかかせたらいい。言われた通りにかけなければ「下手」と評価されていては好きになるはずがない。■私の当時の授業は、水鉄砲に絵の具を入れて紙に向けて打たせたり、まりに絵の具をつけて壁にぶつかけたりといろいろなことをした。生徒も関心を持ってきて、「次はくして絵をかいてみようか」などと次々に新しい発想が出てくる。それに比べ、今の生徒は保守的になってきている。好きなようにやれと言うとまごつく子が多い。■今の美術の授業は感性を評価するようになっておらず、このままではない方がまし。だから日本からは天才的画家がなかなか出ない。美術は“主要5教科”の中で失われる人間性や感性を補う一番大事な教科だということを教師は自覚してほしい。(※若元註／“主要5教科”とは素晴らしい皮肉)

嶋本先生の熱い思いの込もった第6段落末尾の記述はさておき、私は「同感至極ッ!!!」と、溜飲が下がりその場で中川くん握手を求めたことを鮮明に覚えています。ここで余談一件。実はこの引用記事の右下の「湘南Boy, NAKACCHI」のロゴは中川くんの自作です。記事を提供してくれた数日後、この「ロゴ」を私の元に持参し、「この記事を後輩等に紹介する際には是非とも私のロゴを付して印刷を願います」との要請に応えたものです。あらためて彼に感謝しつつ付言しておきます。



チョークは立派な描画材。キャン／パスがキャン／パスに